

【相談内容】

No124.橋台沈下に伴う今後の方針について

- 橋梁補修工事を実施中であるが、現在、上部工の断面修復工が完了し、胸壁改良の施工をしようとしたところ、A 2 橋台と橋桁の間に隙間が空いており、橋台が沈下していることが判明した。
- 橋桁については、護岸に載っており数十年もの間この状況であったと推定される。
- 橋台の沈下については、現況で沈下が止まってしまっているのか、まだ沈下が続いているのかは判断が出来ないところである。
- 今後の対応方針について助言を頂きたい。

【助言内容】

- 橋台上面（主桁支持面）で、ひび割れ・沈下などの変状が確認できることから、安全性が危惧されるため、護岸や橋台近辺からの土砂流出の有無やひび割れの要因等を調査し、その調査結果に応じた対策をすべきと考える。
- また、A 2 橋台で洗掘や背面土の沈下が生じていた場合、A 1 橋台でも同じ現象が生じている可能性があることに注意して状態を把握する必要があると思われる。